

# 福井市下水道事業経営戦略に関する意見書

平成29年3月6日

福井市下水道事業経営戦略策定審議委員会

下水道は、市民の環境衛生の向上及び都市の健全な発達に寄与し、あわせて公共用水域の水質保全に資するために欠かすことができない、公共性、公益性の高い重要な都市基盤施設である。

福井市においては、汚水処理の未普及地区解消に向けた公共下水道施設の計画的な整備とともに、毎年増加する老朽化施設の計画的な改築・更新が必要となってきている。

一方、人口減少、節水型社会による下水道使用料収入の減少や企業債償還の増加など厳しい財政状況が見込まれる中、安定的な下水道サービスの提供を持続するために、中長期的な経営の基本計画である経営戦略が必要となる。

そのため、本委員会は、福井市が経営戦略を策定するにあたり、幅広く意見を求め、専門的な観点から審議を行うために設置され、平成28年4月から平成29年3月までの1年間にわたり、計6回の会議において議論を行ってきた。

については、今までの議論の結果を取りまとめ提言する。

## 審議過程における意見

### ○ 下水道事業計画

各事業計画は、計画どおりの進捗を図るべきである。

普及拡大事業について投資計画に従い今後10年間の計画期間中に下水道整備を完了する必要がある。

また、ポンプ場更新やバイパス管整備等の雨水対策事業、管渠や処理場、ポンプ場設備の更新事業については、市民の安全安心を確保するために計画どおりの進捗が必要である。

### ○ 下水道施設の老朽化

管渠や処理場、ポンプ場の設備の老朽化が進めば、いずれ市民の下水道使用停止や道路の陥没事故などの重大な事案に発展する可能性があるため、これらの改築更新の事業量については投資額のみで決定するのではなく、市として対策を実施する基準を設定して安全性を確保する必要がある。

### ○ 投資額と料金改定にかかる説明

過去10年間の投資額約500億円と本計画期間の投資額558億円を比較すると、投資額が極端に増えているとは言えない。今般の浸水対策や老朽化対策等を考慮すれば、概ね妥当な投資額と考えられるが、投資計画自体が料金改定に直結するものではないという事について市民の理解が得にくい。

また、市民の節水意識の高まりによる下水道使用量の減少が、汚水処理費の減につながらない事についても理解されにくい。

これらのことについて市民感情を充分考慮して説明を尽くすべきである。

### ○ 汚水の減少傾向と料金改定にかかる説明

汚水量の減少傾向と今後の雨水対策に必要な事業の増加を踏まえると市民負担が減り、公費負担が増えるべきと捉えられてしまうので、使用料を改定するのであれば、市民に誤解を与えないように説明しなければならない。

### ○ 経営努力の周知

福井市の下水道使用料はこれまでの経営努力により低く抑えてきたため、類似都市・県内市町に比べ安価である。しかしこの努力がすでに限界に達していることやこれまでの経営改善の内容を市民に対し広くアピールすべきである。

### ○ 下水道の見える化

下水道そのものについて市民に関心を持ってもらい、その大切さや役割を知ってもらうことが重要であり、そのための広報活動を積極的に行う必要がある。なお、市民への広報について、下水道事業は専門用語が多いため、市民目線に立ち、分かりやすい言葉を使うことを心がける必要がある。

### ○ 他計画との整合性、他部局との連携

経営戦略について市・県・国の様々な分野の他計画との整合性を図った上で、他部局との連携を図りながら各事業の実施にあたってほしい。また、布設工事をする際に同じ所を何度も掘り返すことのないよう無駄を省くべきである。

## ○ 下水道資源の活用

福井市の消化ガス発電や石川県珠洲市のバイオマス施設などを有している北陸地方は、下水道資源の有効活用の先端を担っており、今後も下水道資源の利活用を検討していくべきである。

## ○ 滞納、未接続対策

経営や負担の公平性の観点から、今後も使用料や負担金・分担金の滞納対策に積極的に取り組むべきである。また、下水道が布設されても接続していない方がいるが、安定経営の観点から今後も接続促進に前向きに取り組んで欲しい。

## 審議結果

本経営戦略は、経営指標等を用いて詳細に現状分析、課題整理した上で、今後の方向・方策について財政シミュレーションを用いて投資と財源の両面から検討し計画されている。

投資計画は、普及拡大、雨水対策、管渠更新、処理場・ポンプ場の更新および施設の耐震化から成るが、理想的には、全ての施設の整備を一様かつ早急に進めるべきものとする。しかし、その実現には膨大な経費を要するために、重要度に応じた事業の選択と計画年度内での事業の平準化及び経営の合理化を図る必要がある。

一方で、財源の見直しについては、下水道使用料は極力低廉であるのが望ましいが、適正な負担を使用者に求める事が必要である。さらに投資計画や人口減少に伴う減収予測等を考慮すると必要最小限の使用料見直しの検討はやむを得ないと考える。

今後は、将来にわたり投資と財源を均衡させ市民への安全安心な下水道サービスを安定的・効率的に提供するために、「計画策定（Plan）－実施（Do）－検証（Check）－見直し

（Action）」のサイクルを活用しながら、経営戦略の進捗管理を実施すべきである。

以上の内容が充分斟酌されている本経営戦略は、委員会の意見を付した上で、概ね妥当と結論づけた。

今後は、市民の家計に影響する使用料の見直しを検討することを十分に鑑みて、職員全員が一丸となり、今回策定の経営戦略に基づき事業の効率化、下水道事業の見える化を図り市民サービス向上等のため、さらなる不断の努力を続けてもらいたい。

また、本委員会の意見を十分に踏まえるとともに、市民の理解がなければ、下水道事業を将来にわたって安定的に運営することはできないことを肝に銘じて、経営に取り組まれることを望む。

## 福井市下水道事業経営戦略策定審議委員名簿

	氏 名	備 考
委員 長	南保 勝	学識経験者
副委員 長	高島 正信	〃
委 員	寺尾 明泰	〃
〃	岡崎 賢一	下水道事業識見者
〃	稲垣 学	団体代表者
〃	東山 清和	〃
〃	竹内 良行	〃
〃	伊藤 健治	〃
〃	田村 洋子	〃
〃	新道 レイ子	〃

( 1 0 名 )

### 経営戦略の審議経過

年度	月 日	内 容
2 8	4月25日(月)	第1回委員会「福井市下水道事業の現状と課題」
	6月30日(木)	第2回委員会「現地視察」・「投資試算」
	8月 1日(月)	第3回委員会 「投資試算の補足」・「投資に対する財源及び収益と費用」
	9月26日(月)	第4回委員会「経営戦略(素案)」
	10月19日(水)	第5回委員会「経営戦略(素案)その2」
	12月12日(月) ～ 12月26日(月)	パブリック・コメント
	2月13日(月)	第6回委員会「経営戦略(案)及び意見書(案)」
	3月 6日(月)	委員会から市長への意見書の提出